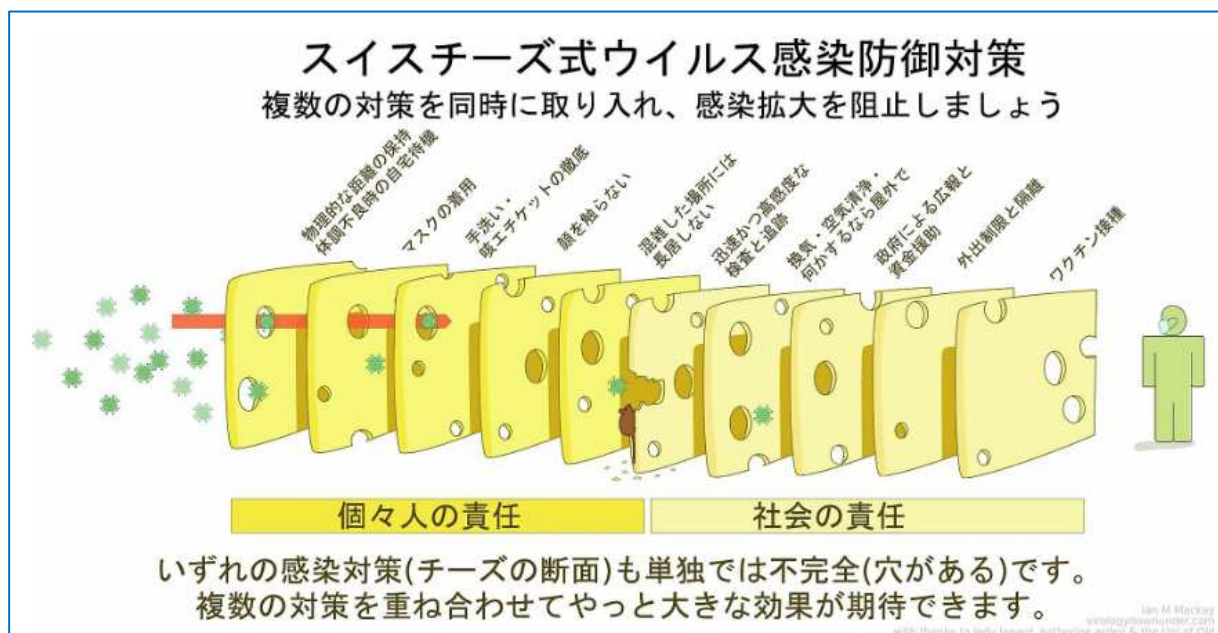


1. コラム「論点提起」： 深層防護や如何

現下のコロナ禍が発生してから既に1年半以上が経過している。全世界で、未だにその感染拡大に収束は見え、新たな変異株の発生と置き換わりが進んでいる。わが国においても、現時点で、緊急事態宣言下にある都道府県は人口ベースで75%に及んでいる。自宅療養待機者や緊急搬送困難者が増え、事実上の医療崩壊状態に近い地域もある。

わが国におけるコロナ対策は、「三密回避」と「外出自粛要請」（緊急事態宣言・まん延防止等樹店措置の繰り返し）、及び「ワクチン接種」が主たる対策となっている。強制力を伴うロックダウン（都市封鎖）は実施できず、水際対策は緩く、PCR検査は徹底せず、医療体制の構築は間に合わず、国産ワクチン開発は遅れをとっている。いわゆる「穴が多い」。

こうした状況のなか、スイスチーズモデル（マンチェスター大学のジェームズ・リーズンが提唱したリスクマネジメントの考え方）を用いたコロナ感染防御策が議論されている。そのベースがオーストラリア クイーンズランド大学のウイルス学者 Ian Mackay 氏らによりクリエイティブ・コモンズ・ライセンス（CC ライセンス）提供されている下記の図（現在、Ver. 4）である。



出典：Ian M. Mackay et al., CC BY 4.0, via Wikimedia Commons <https://bit.ly/3yjPLuz>

関連：「ガラパゴス」スイスチーズモデル考 8/11/2021 新型コロナと子供のリスク

<https://dadshonan.blogspot.com/2021/08/blog-post.html>

「穴の多い」コロナ禍の対応策をスイスチーズモデルで考えるというのは理にかなっている。そして、その改良版は、まさに、集合知が形成されるプロセスを見る感じがする。この図を見ると、日本のコロナ対策の偏り（深層防護の手薄さ）がよく分かる。ワクチン一歩足打法ではなく、このチーズモデルのような考え方で、日本のコロナ対策もそれぞれで検討・実施して欲しいものだが、果たして、そうした柔軟な考え方、リスクマネジメントができるか如何。